

防災・減災教育（避難訓練を含む）実践事例

実践事例1 幼稚園保育実践「地震」

1. 対象・・・幼稚園
2. 指導計画作成にあたっての留意点
 幼児期の発達に合わせて、恐怖心をもたせることのないように配慮し、幼児一人一人が落ち着いて安全に行動できるように、具体的な行動の仕方を理解させるように工夫する。
3. 目標
 ○地震のときに起こりうる事態を具体的に知り、どのようにしたらよいかを知る。
 ○大人の指示をしっかりと聞き、行動できるようにする。
 ○危険な状態を発見したときは、身近な大人に速やかに伝えることができるようにする。
4. 関連領域 健康、人間関係、環境、言葉
5. 指導計画（指導の流れ）

幼児の主な活動	援助及び指導上の留意点
1.命の大切さ、友達と仲良く遊ぶ楽しさなどを話し合う ○自然の大きさ、美しさ、不思議さ。 ○友達と楽しく生活したこと。 ○身近な動植物とのふれあい体験による、生命の尊さへの気付き。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の保育活動の中で、十分に体験させておくことが大切である。
2.地震が起こったらどうなるの ○地震について知っていることを話し合う。 ○地震についての話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことやテレビで見たことをもとに話し合うようにする。 ・恐怖心を与えないようにする。 ・絵本や紙芝居、ビデオなど発達段階にあった資料を活用する。
3.地震が起こったらどうしたらいいの ○保育室や園庭など園内の危険な箇所について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・落下物 ・転倒の危険 ・倒壊の危険 等 ○避難の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・一時退避場所、方法 ・避難経路 ・避難の時の態度 ・危険な状況を見つけた時の対応 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な危険について、具体的に確認しながら考えるようにする。 ・保育室、園庭、遊戯室などそれぞれで具体的にしてみるようにする。 ・落下物などに気を付け、頭を保護するようにする。 ・指示を聞くことが大切だと知らせる。 ・落ち着いて行動することが大切であることを知らせる。
4.家の人とも話してみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・防災指導をした日は、お迎えのときなどに、内容を保護者に伝え、家でも子どもの話を聞き、話し合っ、地震が起こったときにどうしたらいいか考えてもらう。

実践事例2 幼稚園 避難訓練「火災」

令和○年度		避難訓練計画書		大阪市立○○幼稚園	
日時	令和○年○月○日(○)	9:30~9:45	避難所要時間	分	秒
出火場所	職員室				
ねらい	5歳児 ・非常ベルや放送を静かに聞き、先生の指示や約束を守って速やかに避難する 3・4歳児 ・非常ベルや放送を静かに聞き、先生と一緒に避難する方法を知る				
時刻	予想される幼児の活動		指導者の配慮		
9:30	<p>☆事前に火災時の避難の仕方について話をしておく。</p> <p>☆雨の場合は遊戯室に避難する。</p> <p>○保育室で担任と一緒に待機しておく。</p> <p>① 放送を聞く *放送(養護教諭)</p> <p>「今から、火事になった時に逃げる練習をします。ベルが鳴ったら、先生のところに急いで集まりましょう。」</p> <p>② 非常ベル (事業担当主事)</p> <p>③ 放送を聞く (養護教諭)</p> <p>「職員室が火事になりました。先生と一緒にお庭に集まりましょう。訓練スタート」</p> <p>④ 避難する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンカチで口と鼻を押さえながら避難する。 ・いちご組は保育室前テラスから逃げる。 ・ほし組・ゆき組は遊戯室廊下のテラスから逃げる。 ・そら組・つき組は外側階段(砂場側)から逃げる。 <p>⑤ 園庭に並ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来た順番に並んで座る。(人数確認・報告) <p>⑥ 園長先生の話聞く</p> <p>⑦ 担当の話聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事の時の逃げ方 ・地震の時の訓練との違い ・お・は・し・もについて 		<p>※各担任は非常ベルを鳴らす場所を知っておく。</p> <p>※避難経路が確保されているか、危険なものがないかなど、確認しておく。</p> <p>※放送の音量を確認しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に3、4歳児は、火事の時はどう逃げるか、なぜハンカチが必要かなど話をし、避難訓練が大切な練習だということを知らせる。練習であるので安心するように知らせておく。 <p>避難の順序とポイント</p> <p>①ベルが鳴ったら静かに先生の側に集まる。</p> <p>②放送を静かに聞く。</p> <p>③ハンカチを口と鼻にあてて、何も持たずに先生と一緒に逃げる。</p> <p>④担任は電気を消し、窓を閉め、クラス旗の巾着を持って避難する。</p> <p>⑤「お・は・し・も (おさない・走らない・しゃべらない・もどらない)」で避難できるように事前に話をしておき、避難時も声をかける。</p> <p>※階段は広がってもよいが押し合わずに降りるようにする。</p> <p>⑥集まった順に静かに並んで座る。</p> <p>⑦人数点呼後、園長先生に報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先に並べたクラスの担任は、他のクラスがスムーズに並べるよう補助する。 ・落ち着いて話を聞くように知らせる。 		
9:45	○順番に保育室に戻る。(上靴をよく拭く)				

実践事例3 幼稚園 避難訓練「地震・津波」 地域連携 引き取り訓練

日時	令和○年○月○日（○） ○時○分	
災害の想定	午前○時○分（好きな遊びをしている時）に強い地震が発生。地震による津波発生の可能性があり、安全な場所へ避難する必要がある。避難した場所に保護者に引き取りにきてもらう。	
ねらい	・地震のときに起こりうる事態を具体的に知り、大人の指示をしっかりと聞き、自分で判断して行動できるようにする。	
内容	教職員の指示・措置	留意事項
1. 事前指導	<p>○保護者に対して○時に強い地震が発生したと想定して、引き取り訓練をすること、また徒歩で安全な道を通って帰宅することを伝える。</p> <p>○地震について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が知っていることを伝え合う。 ・地震について話す。 ・保育室や園庭など園内の危険な個所について考えるようにする。 （落下物、転倒の危険、倒壊の危険等） <p>○避難訓練について話し合い、以下のような点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内で活動していた場合、電灯、ピアノ、窓から離れる。 ・園庭で活動していた場合、樹木や建物から離れる。 ・揺れがおさまるまで、姿勢を低くして頭を守って待つ。 ・しっかり話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことやテレビ等で見たことをもとに話し合うようにする。 ・恐怖心を与えないようにする。 ・絵本や紙芝居、ビデオなど発達段階にあった資料を活用する。
2. 地震の発生（放送）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の合図の音を聞き、室内にいた場合は上靴のままで避難する。 ・本で行うのは訓練であることを伝える。 <p>○指示 「あわてず、おちついて」 「安全な場所で、小さくなって手で頭を守りましょう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所によって、避難の仕方が異なることを、確認する。 ・頭を保護し、指示があるまで待つことを知らせる。 ・「おさない・はしらない・しゃべらない」（お・は・し）を守って避難することを認識させる。 ・配慮を要する幼児の避難方法については、教職員間で十分に共通理解をはかる。 ・負傷者の有無の確認をする。 ・頭を保護するものが身近にあれば活用する。

	<p>「揺れがおさまるまで待ちましょう」</p> <p>○措置</p> <p>(室内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出入り口を開ける。 ・ 電源を切る。 ・ ガスの元栓を閉める。(冬季) 	
3. 避難の合 図 (放送)	<p>○指示</p> <p>(室内)</p> <p>「揺れがおさまりました。園庭に避難します」</p> <p>「帽子をかぶり、上靴のままで避難します」</p> <p>「頭の上に気をつけて、走らないで園庭に集まり、組ごとに並びましょう」</p> <p>(園庭)</p> <p>「揺れがおさまりました。組ごとに並びなさい」</p> <p>※ 火災発生時</p> <p>「口と鼻をハンカチで覆って避難しなさい」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難方法を明確に指示し、近くの幼児を素早く安全に避難させる。(室内) ・ 各保育室の子どもたちの状況を確認しながら、園庭へと避難させる。(園庭) ・ 先に避難してきた子どもから誘導し、組ごとに並べるようにする。 ・ それぞれの幼児の行動範囲を把握しておき、特に、保育室内に残っている幼児がいらないか確認する。 ・ 人員確認を行い、園舎裏など死角になるところや保育室に、誰も残っていないか確認する。 ・ 二次避難の場の表示を園外から見える位置に掲示する。
4. 人員確認	<p>○指示</p> <p>「ここに並びなさい」</p> <p>「静かに座って待ちます」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任は人員確認を行い、速やかに本部に報告する。
5. 津波警報 の発令 (二次避難)	<p>○指示</p> <p>「津波警報が発令されました」</p> <p>「今から〇〇小学校へ避難します」</p> <p>「頭の上に気をつけて、走らないで先生の後についてきなさい」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波警報が発令されたことを知らせる。 ・ 二次避難することを伝え、組ごとに、二次避難場所へ避難する。 ・ 地震発生時と同じように、「おさない・はしらない・しゃべらない」(お・は・し)を守って避難する。 ・ 余震の発生の可能性もあるので、移動中も頭上に気を付けさせる。
6. 人員確認	<p>○指示</p> <p>「ここに並びなさい」</p> <p>「静かに座って待ちます」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任は人員確認を行い、速やかに本部に報告する。

<p>7. まとめ</p>	<p>○係の話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場に移動させる。 ・避難時の行動の態度や避難の所要時間について話をする。 <p>○地域防災リーダーや消防署の話</p> <p>○園長先生の話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全幼児の安全確認を行い、「おさない・はしらない・しゃべらない」が守れたか、安全に気を付けて避難できたかなどについて話をする。 ・地域防災リーダーや消防署の方に、大阪市で予想される地震や津波、大きな地震が発生したときの状況、その後の生活について等話していただく。また、日常から気を付けておくことについても話していただく。 ・良かった点や注意する点等、話をする。
<p>8. 保護者による引き取りを行う。</p> <p>9. 保護者の迎えのない幼児を把握し園に戻る。</p>	<p>○保護者を誘導し、名簿に記入するとともに幼児の名前を呼び、一人ずつ確実に引き渡すようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれるまで座って待つ。 ・保護者と手をつないで降園する。 <p>○周囲の情報収集をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任と一緒に園に戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き渡した時刻を名簿に記入する。 ・引き渡しを終了した担任は、本部に報告する。 ・幼児が不安にならないよう配慮しながら、園に戻る。

《その他の留意点》

- 建物崩壊・倒壊などの危険もあるので、避難誘導の際には、様々な被害想定に基づいて計画を立てて実施する。
- 季節や9月1日の「防災の日」、1月17日「防災とボランティアの日」の行事などの関連及び地域の取組や実態を考慮して、訓練の計画を立てる。
- 普段から、幼児の好きな遊びの場所や行動範囲を把握しておくとともに、幼児には、担任の教師だけでなく、園のすべての職員の指示を聞いて行動できるように指導しておく。
- 災害時における幼児の心身のケアについて事前に研修を行っておく。
- 災害に備え、家庭との連絡体制を確立しておくとともに、保護者には、普段から安全な通園路を確認するように啓発しておく。
- 家庭でも、普段から災害に備え、いざというときの心構えについて確認しておくことの大切さを啓発していく。

実践事例4 小学校授業実践「地震」 地域連携

1. 対象・・・ 小学校 低学年

2. 指導計画作成にあたっての留意点

小学校低学年においては、地震などの災害に関わる基本的な知識を身に付けるとともに、地震が発生したときに、教員や保護者など近くの大人の指示に従うなどして適切な行動がとれるよう、避難訓練において、災害に応じた行動の仕方を身に付け、安全に避難できるようにすることが大切である。

3. 目標

- 地震が発生したときに、教員や保護者など近くの大人の指示に従うなどして適切な行動ができるようにする。
- 地震のときに起こりうる事態を具体的に知り、どのようにしたらよいかについて知る。
- 危険な状態を発見したときは、身近な大人に速やかに伝えることができるようにする。

4. 関連教科等 特別活動

5. 指導計画（指導の流れ）

主な学習内容と活動	指導上の留意点（教科等との関連）
1. 地震について話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・地震 ・地震による被害 ・二次災害（津波・火災）による被害 ・避難方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震について知っていることを出せるようにする。 ・地震による二次災害として火災や津波が発生することやこれまでの地震で多くの人が犠牲になったことを知らせる。
2. 地震や地震による火災から身を守るための行動について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ドアが変形して閉じ込められないようにドアを開ける。 ○ 電燈や家具、飛散したガラスから身を守るため机の下に隠れる。 ○ 地震により火災が発生するのを防ぐためガスの元栓をしめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時の状況や地震によってどのような状況が起こるのかについて具体的に知らせ、どのような行動が適切なのかを考えられるようにする。 ・考えた行動を自分ひとりでできるかどうかについて考えるようにさせ、大人がいる場合は、大人の指示をしっかりと守って行動することが大切であることに気付けるようにする。
3. 避難訓練をする <ul style="list-style-type: none"> ○ 集団での避難行動の中で大切な「お・は・し・も」の約束事について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・おさない ・はしらない ・しゃべらない ・もどらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導を十分に行い、事後指導の中で教師の指示を守れたか、落ち着いて約束事を守って避難できたかについて振り返られるようにする。 ・児童の様子を常に把握し、様々な危険について、具体的に確認しながら訓練を行うことができるようにする。

<p>○地震による火災が発生したと仮定して二次避難を行う。(近くの公園や神社など)</p> <p>○消防署の人や地域防災担当の方のお話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火災がひどくなった場合、学校の運動場ではなく、近くの公園や神社に二次避難することを知らせる。 ・逃げ遅れた児童がいないか人員確認をし、本部に連絡をする。 ・事前に話し合った約束事を守れたかについて事後指導をするとともに、消防署や地域の防災担当者の方の講話から、避難時の課題や日頃から気を付けておくことを考えることができるようにする。
<p>4. 家の人とも話してみよう</p> <p>○家族で話し合ったことを出し合い、家でできる避難の仕方や事前の備えについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級だよりや学年だよりなどで、防災指導や避難訓練について保護者に知らせ、家庭においても、地震が起こった場合についてどのようにしたらよいのかについて児童と話し合うように働きかける。

実践事例5 小学校 授業実践「地震」 地域連携 体験学習

1. 対象・・・小学校 中学年

2. 指導計画作成にあたっての留意点

小学校中学年では、地震のときに起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動ができるようにすることが大切である。そのため、地震の際の危険について、学校周辺や地域の特性や実態をもとに考えさせ、避難訓練において、具体的な行動場面に潜む危険を考慮して、安全に行動できるようにすることが必要である。また、地域防災リーダーの方の話を聞いたり、消防署等を見学し、消防士の話を聞いたりすることで、地域防災リーダーや消防士の役割や願いについて理解できるようにすることも大切である。

3. 目標

- 今後起こるであろうと予測されている南海地震をはじめとする地震による災害について知るとともに、身の安全を守るために自分や家族がすべきことについて理解する。
- 地震のときに起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動ができるようにすることができるようにする。
- 地震等の災害から人々の安全を守る体制が地域にあり、それらの関係者や従事している人々の役割や願いを知り、今後の生活の中で生かしていこうとする態度を身に付ける。

4. 関連教科等 社会科、特別活動

5. 指導計画（指導の流れ）

主な学習内容と活動	指導上の留意点（教科との関連）
1. 地震や地震による火災から身を守るための行動について話し合う。	・地震発生時の状況や地震によってどのような状況が起こるのかについて、写真などの資料を用いて具体的に知らせ、適切な行動について考えられるようにする。
2. 避難訓練をする。 ○想定された地震発生状況での避難訓練をする。	・これまでの学習や避難訓練の経験からどのようなことが大切なのかを確認し、訓練できるようにする。
3. 想定以外の場面で地震が発生した場合、どのような行動をとればよいかについて考える。	・自宅にいるときに地震が発生した場合、登下校時に発生した場合など、具体的に場面を想定して、避難の方法について考えられるようにする。
4. 地域防災リーダーの方の話を聞く。 ・大阪市で予想される地震 ・大きな地震が発生した場合の状況 ・大きな地震が発生した後の生活	・地域防災リーダーの方をゲストティーチャーとして迎え、大阪市で予想される地震や、大きな地震が発生した場合の状況、その後の生活等について話をさせていただくようにする。
5. 消防署の見学、体験学習をする。 ○地震による火災の危険について ○けむり体験、消火活動体験など	・地震による火災から身を守るためにどのようなことが大切かについて、見学や体験学習を通して、考えられるようにする。
6. 自分たちの生活の中でできる地震に対する備えについて考える。	・これまでの学習を振り返り、地震のために自分たちができることや家族としての備えについて考えられるようにする。

実践事例6 小学校 授業実践「地震」 体験学習 地域連携

1. 対象・・・小学校 高学年

2. 指導計画作成にあたっての留意点

小学校の高学年においては、地震や地震による二次災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、自分の安全だけでなく他の人々の安全にも気配りができるようにすることが大切である。そのためには、大きな地震時の状況を実感として受け止めさせるとともに、地震により発生する二次的な災害（火災等）が発生する仕組みについても十分に理解させる必要がある。また、大きな地震後の収容避難所での生活について理解するとともに、もしもの避難生活のときに自分たちができることを考えさせる必要がある。指導にあたっては、防災センターでの地震体験学習や貯蔵食料を実際に食す体験等を学習の中に位置付けたり、課外においては、地域の防災訓練に参加させたりすることも重要である。

3. 目標

- 今後起こるであろうと予測されている南海地震をはじめとする地震による災害について知るとともに、身の安全を守る「自助」のために自分たちがすべきことについて理解する。
- 地域防災訓練や体験学習を通して、災害時に適切に対処できる能力を育てるとともに、防災・減災には人々の助け合い「他助、公助」が不可欠であることを知る。
- 家庭、地域で生活することを再認識するとともに、これからの生活の中で自分ができることを考え、実践していく態度を身に付ける。

4. 関連教科等 理科、社会科、家庭科、保健、特別活動、総合的な学習の時間

5. 指導計画

主な学習内容と活動	指導上の留意点（教科との関連）
<p>1. わたしたちの大阪市と地震</p> <p>○大阪市や大阪市付近を襲った過去の地震について調べる。</p> <p>○地震のメカニズムについて調べる。</p> <p>○地震を体感する。 ・阿倍野防災センターでの体験学習</p> <p>○大阪市で予想される地震について調べる。</p>	<p>・インターネットで調べたり、家の人に過去の震災の話の聞いたりし、震災の事実だけでなく、その震災のときの様子についても調べられるようにする。（社会科）</p> <p>・地震のメカニズムについて調べられるようにする。（理科） インターネット 子ども技術白書Ⅶ「指令！地震災害を究明せよ」の活用</p> <p>・地震について十分に体感できるように阿倍野防災センターと打合せをし、見学させる。 起震機での地震体験 地震発生時の行動体験 消火器の使い方体験</p> <p>・予想される震災の大きさや被害状況予測をもとに話し合い、身の安全を守ることの大切さについて理解を図る。</p>

<p>○家庭や学校、地域における防災の取り組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭 ・学校 ・地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校、地域でどのような準備をしているかを調べ、今後の学習（避難訓練など）に取り組むことができるようにする。
<p>2. 災害が発生した場合に備えること</p> <p>○避難訓練を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の留意点について ・消防署員や地域の防災リーダーからの話 <p>○避難所での生活を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の様子を映像から ・非常食を食べるなどの体験から ・避難している人々の思いから 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練が形骸化しないように、事前に地震発生時や避難時の留意点について話し合えるようにする。 ・自分たちの避難の様子について振り返るとともに、消防署員などの関係者から話を聞き、避難時の自分たちの課題について把握できるようにする。 ・避難後の生活について映像などから想像させ、避難生活の不便さや苦勞について理解できるようにする。 ・アルファ米、ハイゼックス米、乾パンなどの非常食を食すことにより、避難生活の不便さを実感できるようにする。(家庭科) ・避難生活の不便さだけでなく、避難している人々の復興への思いについて考えられるようにする。
<p>3. わたしたちにできること</p> <p>○これからわたしたちにできることについてまとめ、発表する。(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が家の防災について ・地域防災訓練への参加について ・避難生活を強いられたときの自分の行動について ・将来の災害ボランティア活動への参加について 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を振り返り、防災・減災のために自分たちができることを話し合えるようにする。 ・家庭や地域の方に来ていただき、発表を聞いてもらって、防災・減災について連携を図ることができるようにする。

実践事例7 小学校 授業実践「地震」 総合的な学習の時間

1. 対象・・・小学校 中・高学年
2. 単元名 「安心・安全まちづくり ～守ろう命 考えよう防災～」(総合的な学習の時間)
3. 単元の概要

①単元の目標

東日本大震災について学んだことをもとに、自分の生活を見直し、防災意識を高め、安心・安全なまちづくりのために実践しようとする。

②単元で育てようとする資質や能力及び態度

[学習方法に関すること]

- ア 東南海地震が起こるだろうと予想される状況の中から防災にかかわる課題を発見し設定する。
- イ 課題解決をめざして見学したり調べたりしたことをもとに考える。

[自分自身に関すること]

- ウ 防災意識を高め、自分や家族の安全な生活のあり方を意識し、実践する。

[他者や社会とのかかわりに関すること]

- エ 地域の方や友達、家族の考えを受け入れ、地域社会の中での自分の安心・安全な生活のあり方を考える。

③単元で学ぶ内容

- ア 津波・高潮についての科学的な理解
- イ 自分たちにできる災害への備え

4. 単元の評価規準

評価の観点	学習方法		自分自身	他者や社会とのかかわり
	課題設定	思考・分析	自己理解	他者理解
単元の評価規準	<p>①東日本大震災の学習をもとに、東南海地震が起きた場合の自分の町の状況を考え、安全を守るための学習活動を構想し、課題を設定している。 [②-ア、③-ア]</p> <p>②自分の防災意識を見つめ直し、安全を守るための学習計画を立てている。 [②-ア、③-イ]</p>	<p>①わたしたちの町の震災被害を調べたり、防災施設を見学したりしながら、防災の大切さについて考えている。 [②-イ、③-ア]</p> <p>②避難方法を想定したり、自分の町の防災マップを作ったりしながら安心・安全な生活について考えている。 [②-イ、③-イ]</p>	<p>①調べたり見学したりする活動を通して、学んだことを振り返り、防災意識を高めている。 [②-ウ、③-ア]</p> <p>②「自分にできる避難計画」を考え、自分や家族の安全な生活のあり方を意識し、実践しようとしている。 [②-ウ、③-イ]</p>	<p>①聞き取りや見学を通して、友達や地域の方などの考えや意見などを積極的に取り入れている。 [②-エ、③-ア]</p> <p>②友達や家族の考えを受け入れ、自分の町での安心・安全な生活のあり方を考えている。 [②-エ、③-イ]</p>

5. 活動の流れ (全25時間)

第1次 もしも大きな地震が起きたら・・・(3時間)

目標 わたしたちの町を防災の視点から見つめ直し、追究する課題をもつことができるようにする。

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準(方法)
もしも地震が起きたら、わたしたちの町はどうなるだろう		
<p>○大きな地震が起きたら、わたしたちの町はどうなるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古い家が多いから、町がつぶれる。 ・阪神大震災の時のように、高速道路が倒れるかもしれない。 ・地震の後、火事になるかもしれない。 ・海が近いから津波が来るかもしれないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の資料を借り出しておき、効率よく調べられるようにしておく。 ・東日本大震災など過去の大震災の被害についての知識をもとに、わたしたちの町はどのような被害を受けるのか想像させ、学習への意識を高める。 	
わたしたちの町が受けた被害について調べよう		
<p>○これまでにわたしたちの町で起きた地震や津波について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人に聞いてみよう。 ・図書館で調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神大震災については家族や身近な人から聞き取らせ、取材ノートに記録できるようにする。 ・図書館の資料を活用し調べるようにする。 	
<p>○わたしたちの町が受けた被害について調べたことを報告し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から津波や高波の被害が多かったんだね。 ・わたしたちは、どのようにして町や命を守ればいいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神大震災や過去の大地震の被害状況がわかる資料を準備し、補助資料として活用できるようにする。 ・聞き取りや過去の実際の資料をもとに、自分たちの町を防災の視点から見つめなおさせ、防災について追究しようとする意識を高める。 	<p>思① 製作物による評価 他① 製作物による評価 課① 行動観察による評価</p>

第2次 防災の施設について調べよう。(10時間)

目標 防災施設を見学し、災害に備えることの大切さを理解することができるようにする。

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準(方法)
防災施設を見学しよう		
<p>○防災施設(防災センター・津波高潮ステーション)に見学に行こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防潮扉を閉める体験をする。 ・大きな台風がきた時の大きな被害につ 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災施設の見学を通して、水害から町を守るための施設や、いろいろな工夫を知ることができるようにする。 	<p>思① 自① 製作物による評価</p>

<p>いて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の地震と津波について知る。 ・防災グッズについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害を最小限に食い止めるために、科学的な取り組みが行われていることに気付けるようにする。 	<p>思① 行動観察による評価</p>
<p>防災グッズを作ってみよう</p>		
<p>○防災施設で教えていただいた防災グッズを作ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールとビニル袋と古新聞で簡易トイレができたよ。でも、落ち着いて用が足せないな。 ・大きなビニル袋の中に古新聞を入れると布団ができたけれど、冬は寒いだろうな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料を用いて防災グッズを作ることができるが、実際用いるときには、不便であったり、不自由を感じたりするだろうということを考えられるようにする。 	

第3次 わたしたちの町の防災計画を立てよう (12 時間)

目標 わたしたちの町の防災計画を立て、安心・安全な町づくりや生活について考えることができるようにする。

<p>主な学習活動</p>	<p>教師のコーディネート</p>	<p>評価規準 (方法)</p>
<p>○家族や町の人のために役立つ、防災計画を立てようとする意欲をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな災害が起きたら、どこへ、どのようにして避難すればいいだろう。 ・家族と一緒に安心して暮らすには、どうすればいいのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、自分や家族、町の人々の安心・安全な生活について考えられるようにする。 ・学校での避難訓練の学習をもとにして、家族や町の人のために役立つマップや避難計画を立てることを確認するようにする。 	<p>課② 制作物による評価</p>
<p>自分たちで避難訓練をしよう</p>		
<p>○津波が来たらどこに避難したらよいか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校にいる時、家にいる時、どこに行けばいいのかを考える。 ・高い所に避難しないといけないことに気付く。 ・どこに高い建物があるのか調べてみよう。 <p>○実際に避難してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室から講堂の上に避難してみよう。 ・家から高い建物まで避難してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区地図を活用し、防災施設で学習したことをもとに、地域にある高い建物を避難場所として想定するようにする。 ・実際に体験することで、避難に必要な時間や、避難経路や避難場所での留意点、危険な箇所について知るこ 	

<ul style="list-style-type: none"> 家の周りに防災に関する設備を見つけたよ。 	<p>とができるようにする。</p>	
<p>防災マップを作ろう</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 家の周りにある防災設備について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 住んでいる地域ごとにグループを編成する。 地域防災リーダーの話を聞くことで地域の防災計画について知ることができるようにする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 調査した事柄をもとに、自宅やその周辺の防災用施設や設備、避難に適した場所などをマップに書き込み、防災マップを仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校区を超えた生活圏も含めて実地調査したことをマップにまとめることで、地域の状況や課題、よりよい避難の仕方について情報交流できるようにする。 	<p>思② 制作物による評価</p>
<p>防災家族会議を開こう</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の行動計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 自宅周辺の危険な場所について確認する。 家族と待ち合わせする場所を決める。 避難経路を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家族にとって必要な避難の条件を考えるようにし、それぞれの家庭にあったマップを作成できるようにする。 	<p>自② 制作物による評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> 家族で「防災会議」を開く。 <ul style="list-style-type: none"> 避難場所や避難経路を確認する。 マップや避難計画について家族の意見を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難計画を修正してもよいことを家族に話し、家族にとってもっともよい避難計画について検討できるようにする。また、意見を記録できるようにする。 	<p>他② 制作物による評価</p>
<p>大震災に備えてできること</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 家庭での「防災会議」で話し合ったことや気付いたことなどを報告し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭での話し合いの結果を報告し合い、避難グッズ、避難先、連絡のとり方などを報告できるようにする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 家族での話し合いをもとに、防災マップや避難計画を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の意見や友達の報告を取り入れて、よりよいマップ・避難計画を作ることができるようにする。 	<p>自② 制作物による評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な町作りのため、自分自身も 	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全を視点到に振り返り、地域の 	

<p>町の一員として、できることを話し合う。</p> <p>○防災マップや避難計画を町の人に広げよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回覧板などで学習の成果を報告しよう。 ・町の人にも配ろう。 ・たくさんの人に見ていただけるよう区役所に置いてもらおう。 	<p>人みんなが防災意識をもつこと、お互いに協力して助け合う気持ちをもつことの大切さに気付くようにする。</p> <p>・町の一員としての自覚をもって行動しようとする態度を育てる。</p>	<p>他② 行動観察による評価</p>
--	--	-------------------------

実践事例8 小学校 避難訓練「地震・津波」

日時	令和〇年〇月〇日（〇） 〇時〇分	
災害の想定	午前〇時〇分に強い地震が発生。さらに5分後に地震による津波発生。安全な場所へ避難する。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地震や津波の恐ろしさを知り、自分たちの命を守るための基本行動を理解し、的確に行動できる態度や能力を身に付ける。 地震発生後や津波発生後の避難の仕方を知り、指示を聞いて速やかに避難できるようにする。 地域の方と協同で避難訓練を行うことで地域の防災リーダーともふれあう。 	
内容	教職員の指示・措置	留意事項
1. 事前指導	<p>○避難訓練について話し合い、以下のような点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 頭を保護するために、机の下に隠れる。 揺れがおさまるまで待つ。 しっかり話を聞く。 避難の合図の音を聞き、上靴のまま避難する。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭を保護するために、机の下に隠れ、指示があるまで待つことを知らせる。 おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない（お・は・し・も）を守って避難できるようにする。 配慮を要する児童の避難方法については、教職員間で十分に共通理解をはかる。
2. 地震発生	<p>①地震発生。第一指令 「ただいまより、避難訓練を始めます。」 「緊急放送、緊急放送。ただいま〇〇地方に震度5の地震が発生しました。全員机の下にもぐり、机の足を持ち、静かに身体を守ってください。」 〔放送：教頭〕（非常ベル3回ジージー）</p> <p>②児童は机の下にもぐる。教職員は教室のドアを開ける。 【担任は名簿を必ず携帯する。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声ではっきりと指示する。 児童の行動を把握し、落ち着かせる。 頭部の安全について指示をし、特に窓やロッカーの近くの児童には、頭部を反対にして机の下にもぐらせる。 負傷者の有無の確認をする。 頭を保護するものが身近にあれば活用する。
3. 避難合図（放送）	<p>③第二指令「揺れがおさまってきましたが、まだ強い揺れがくることも考えられますので、運動場へ全員避難します。先生の指示に従い、避難してください」</p> <p>④教室から運動場へ避難する。（赤白帽をかぶる。上履きのまま。名簿をもつ。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 避難方法を明確に指示する。 隣接の学級と協力して、素早く安全に避難できるようにする。
4. 人員確認	<p>⑤朝礼の隊形に整列。各担任は人数確認して、報告する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人員確認を行い、教室に誰も残っていないか確認する。 担任は人員点呼を行い、速やかに本部

<p>5. 津波警報の発表 (二次避難)</p>	<p>⑥津波警報発令。第三指令「津波警報発令、津波の危険性あり。3階以上に避難します。3・4・5・6年は各教室、1年生、2年生は4階へ先生の指示に従って避難してください」</p>	<p>に報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波警報が発表されたことを知らせる。 ・学級ごとに、3階以上の教室に移動することを伝え、所定の教室・廊下等へ移動させる。 ・地震発生時と同じように、「お・は・し・も」を守って避難できるようにする。 ・余震の発生の可能性もあるので、移動中も頭上に気を付けさせる。
<p>6. 人員確認</p>	<p>⑦ 3・4階へ避難。各担任は人数確認して報告。本部は図工室に設置する。</p> <p>⑧ 放送。「津波による避難訓練はこれで終了です。一度運動場に集合して校長先生の話をお願いします。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は人員点呼を行い、速やかに本部に報告する。
<p>7. まとめ</p>	<p>⑨ 運動場に朝礼の隊形で並ぶ。</p> <p>⑩ 校長先生の話</p> <p>⑪ 地域の方の消火訓練 見学</p> <p>⑫ 地域の方の話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童の安全確認を行い、おさない・はしらない・しゃべらないが守れたか、安全に気を付けて避難できたかなどについて話をし、児童個々の反省の視点を伝える。 ・地域防災リーダーに、火災が発生した場合の消火訓練を行ってもらい、その後大阪市で予想される地震や津波が発生したときの状況、地域での避難方法などを話してもらう。

《その他の留意点》

- 建物崩壊・倒壊・火災発生などの危険もあるので、避難誘導の際には、様々な被害想定に基づいて計画を立てて実施する。
- 季節や9月1日の「防災の日」、9月5日の大阪府下「880万人避難訓練」、1月17日の「防災とボランティアの日」などの関連及び地域の取組や実態を考慮して、訓練の計画を立てる。
- 災害時における児童の心身のケアについて事前に研修を行っておく。
- 災害に備え、家庭との連絡体制を確立しておく必要がある。
- 家庭でも、普段から災害に備え、いざというときの心構えについて確認しておくことの大切さを啓発していく。
- 地域防災リーダーとも連携し、児童だけでなく、学校としても地域の避難の仕方について理解する。

実践事例9 小学校 避難訓練「火災」

1. 日 時 令和〇年〇月〇日(〇) 10:45~11:30 (学校行事I)

2. 想 定 ○ 家庭科室より出火したため、安全な場所へ避難する。

3. 目 標

児 童・・・避難経路の確認。火事から身を守るための方法について知る。

教職員・・・避難経路の確認。火災発生時の対応の確認、役割の確認。

4. 役割分担

- 隊 長:校 長 … 統括的指揮
- 副 隊 長:副校長 … 隊長の補佐・警備会社への連絡
- 連絡通報:教 頭 … 消防機関への連絡
- 放 送:教 頭 … 非常ベル・避難指示
- 広 報:教 務 … 記録
- 避難誘導

・ 運動場整列・人数確認

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	保健室

・ 校舎内見回り(主に救助班の先生 **必ずペアで行動してください。★トランシーバー所持**)

	北校舎	東校舎	南校舎	西校舎
4 階				
3 階				
2 階				
1 階				

- 情報集約・報告:学級担任→学年主任→管理職
- 児 童 監 護:児童対応班の先生
- 保 全:管理作業員・事務
- 計 時:教務
- 講 評:学校長 SPS 担当

5. 注意事項

- 使用中の火気の消火・教室の電気を消灯し、扉を開けて避難通路を確保する。
- 児童が校舎内の教室、トイレ、階段などに残っていないことを必ず確認する。
- 担任は学年児童の名前を確認できる名簿を持ち、児童の人数を確認し、異常の有無を学年主任に連絡する。
- 学年主任は、学年の人数と異常の有無を本部まで知らせる。
- 防災バッグは持参し、学年主任と校舎内見回りの先生はトランシーバーの電源はオンにする。

※事前にトランシーバーの電池が充電されているか確認しておく。

- 養護教諭は、担任不在時に人数点呼ができるように健康記録簿を避難場所(運動場)に持ち出しておく。
- 配慮を要する児童の避難方法については、前もって打ち合わせしておく。

○校舎内見回りの先生は**必ずペア**で行動する。

○担任は**学年カラーのゼッケン**を着用する。(管理職は赤色)

○災害対応班は、現場に行き、初期消火を行う。(詳細は「8. 避難訓練の流れ」を確認)

⇒赤い球を取ってくる

※トランシーバーについて

混線などを防止するために、報告するチャンネルを学年ごとに変更する。

1・2・3年生…**チャンネル3** 集約担当:対策本部 副校長

4・5・6年生…**チャンネル4** 集約担当:対策本部 教頭

⇒混線した場合は、途中からチャンネル変更するなどの対応を考慮する。

(今後は、混線した際の対策として、各場所に拡声器を設置することを検討している)

不審者侵入、および地震等の自然災害が発生したときの情報共有手段として、各学年に少なくとも2台、安全主任、管理職にトランシーバーを配備している。(場所によってはつながらない場合がある)

○文言例

① 「こちら〇〇(所属、名前)です。△△先生、応答願います。」

・個々のやり取りが必要な場合は、必ず自分の所属と名前を伝えた上で、連絡したい教職員の名前を挙げる。

② 「こちら〇〇(所属、名前)です。各学年の児童の人数を確認してください。」

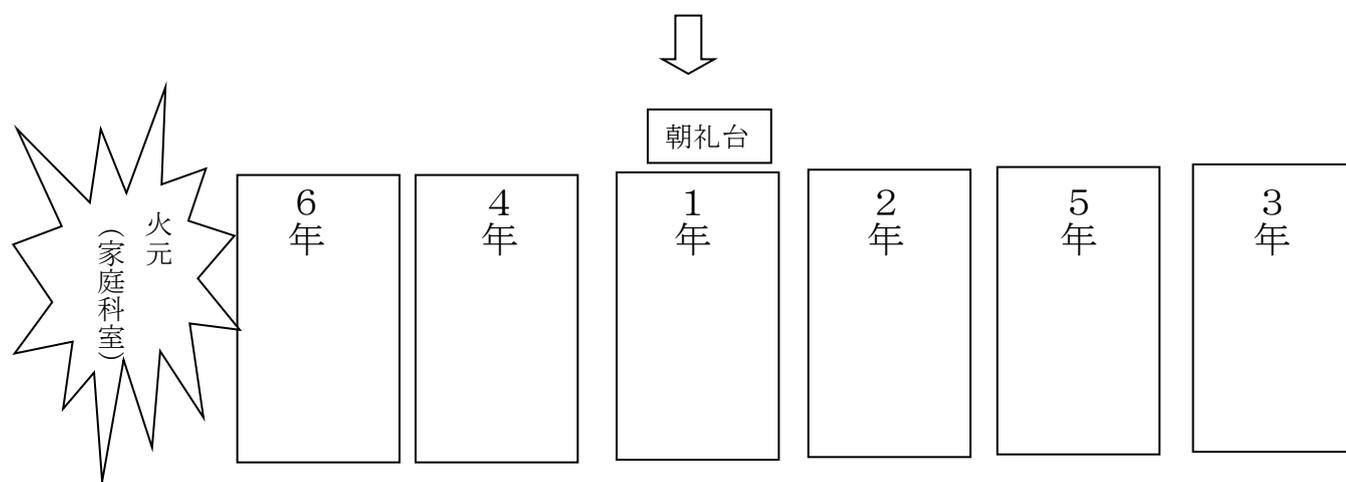
「△年、了解しました。」「△年、□□人そろいました。」

「〇〇です。△年□□人、了解しました。」

・校舎内で十分に電波が届かない事例も報告されているので、情報を復唱するようにして確認する。

6. 集合隊形(朝会と同じ場所だがクラスの並ぶ場所は指定しない)

※列に入れない場合は、周りを見ながら声をかけ合って、行動してください。



○避難時は、出席番号順で並ぶことができるようにしておく。

理由：保健ファイルが名前順であるため。

担任不在時、他の教職員が確認する際の名簿が、出席番号順になっている。

ただ、避難時に並びなおしてから避難を始める必要はないと思っています。

人数確認の際に、必要であれば出席番号順に並ぶ必要が出てくると思います。

7. 事前指導について

・周りを見て落ち着いて、考えて行動すること。

・みんなで協力すること。

・校内放送の指示を聞き、静かに速やかに行動できるようにする。

・HKH（堀江緊急放送）という言葉が緊急時に放送で流れるということの共通理解をしておく。

・㊦「おさない」㊧「走らない」㊨「しゃべらない」㊩「もどらない」の原則を徹底させる。

・口にハンカチを当て、防災頭巾をかぶり、上靴をはいたままで避難させる。

※特別教室にいる場合は、防災頭巾は不要。

※靴を脱いでいる場合は、靴を素早く履く。

※ハンカチがない場合は、体操服や給食着で代用する。

※煙を吸わないようにするため、少しかがみながら避難をする。

・避難経路や避難場所での並び方を知らせる。（出火場所から離れるようにして避難する）

8. 避難訓練の流れ

	<p>【事前指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学級の実態に応じて、事前に説明しておく。
10:50	<p>【発火確認：火災報知器作動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科室や近くの教職員や児童に火災発生を知らせる：第一発見者「家庭科専科」 ・火災報知器を押す：同上「家庭科専科」 ※今回は訓練のため、避難放送後に鳴らさない。
10:53	<p>【火災発生】</p> <p>「今から避難訓練を始めます。○KH ○KH ※○KH(○○ きんきゅう ほうそう)の略 家庭科室で火災が発生しました。児童は、担任の先生の指示に従って運動場に避難しなさい。」</p> <p>児童・教職員：放送を最後まで静かに聞き、火災発生場所と避難場所の確認を行い、避難する。</p> <p>※火災の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓、戸は閉める（燃え広がらないようにするため） ・カーテンを開ける（中の様子が見え逃げ遅れた人がいないかわかりやすくするため）

	<p>第一発見者・近くの災害対応班:放送を確認し、初期消火※1へ向かう。(消火器を持って駆けつける)</p> <p>※1:火元の状況を確認し消せると判断した場合は消火活動を行う。 (消せないと判断した場合は、速やかに避難する⇒〇〇公園へ避難を要する必要がある)</p>
11:05	<p>【安全確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任は人員確認し、学級担任⇒学年主任⇒管理職の順に報告する。 【報告内容:①学年学級名 ②児童数(インター児童含む・欠席の有無) ③異常の有無】 1・2・3年生…チャンネル3 集約担当:対策本部 副校長 4・5・6年生…チャンネル4 集約担当:対策本部 教頭 ・校内に残っている児童がいないか見回り、確認する。(救助班の先生) ※トランシーバーをもっていく。 ・現場へ向かい、消火活動をする。(災害対応班の先生) ・怪我をした児童の対応。(保健室前・救護班の先生) ・避難が完了した児童がその場で静かに落ち着いて待機できるように監護。(児童対応班の先生) ・児童、校内の安全確認をし、確認がとれたら訓練を終了する。
11:15	<p>【講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難時の行動や態度について講評する。(学校長) ・指導講評(SPS担当)
11:20	<p>【解散】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練後、担任の指示にしたがって静かに教室へ移動する。(靴の汚れを落として、戻る) ・各教室に戻って、事後指導をする。

実践事例 10 小学校 避難訓練「地震」 引き渡し訓練

1. 日時 令和〇年〇月〇日（〇）6校時 地震の避難訓練終了後
2. ねらい
 - (1) 児童及び教職員、地域、保護者の防災意識向上を図る。
 - (2) 非常変災時、児童を保護者に円滑に引き渡すことができるようにする。
3. 想定
 - (A) 大阪市（大阪市内）に暴風警報、暴風雪警報、特別警報が発表された。
 - (B) 大阪市（大阪市内）に淀川・神崎川（淀川区域）の河川氾濫による発令（警戒レベル3）が発表された。
 - (C) 大阪市内で震度5弱以上の地震が発生した。（気象庁発表）
 - (D) 教育委員会より下校の指示があった。今年度、想定
4. 当日の日程

（5時間目） 14：45～ 引き渡し開始
5. 引き渡しの仕方
 - 引き渡しの意義について知らせる。
 - 兄弟姉妹がいる場合は、高学年から引き取ることを確認する。
 - 引き渡しの際には、個人連絡票の「緊急時児童引受人」を見ながら引き渡しを行う。
 - 引き渡しの際には、引き取り者及び引き渡し教職員のサインをする。
6. 避難訓練の展開

本部	教職員	児童
1.（14：45～） 放送 「ただいまより、引き渡し訓練を行います。」 「兄弟のいる保護者の方は、高学年の児童から引き取ってください。」 2.（保護者が教室に来たら） 各教室で引き渡し開始。 3.（15：15～） 15：15になった時点で引き取りのない児童は集団下校開始。	○名前を確認しながら、保護者に確実に児童を引き渡す。 ○ <u>引き渡しの際には、「非常変災時 児童引き渡し票」に引き取り者（保護者）及び引き渡し教職員のサインをする。</u> ○学童は担当者に引き渡す。 ○15：15になったら、引き取りのない児童を <u>体育館に集合</u> させ、地域別ごとに並ばせる。	○保護者が迎えに来るまで教室内で静かに待つ。 ○ <u>引き渡し開始と同時にいきいき活動の児童は、いきいき活動へ行く。</u>

7. 係分担

- ・本部…校長、教頭
- ・校内放送…教務

8. 児童引き渡し票の記入例

※児童引き渡し票、地域別児童会学級名簿及び、学級名簿は、個人連絡票に付いています。

非常変災時 児童引き渡し票						
						児童名
	年		組		番	
引き渡し日時			_____月 _____日 _____時 _____分			
引き取り者名						
引き渡し職員			担任 ・ その他()			

・・・教職員が記入

・・・保護者が記入

- ・引き渡し訓練終了後、講堂にて地域別の班に分かれます。
- ・残っている児童の地域を確認し、ホワイトボードに掲示されている用紙にチェックをつけます。
- ・残っている児童には、自分の地域別の場所に行くよう伝えます。

児童引き渡し訓練の流れについて（共通理解用）

1. 想 定 引き渡しが必要になる場面は次の内容を想定している。
 - ・平成30年の大阪北部地震のような〇区への影響が小さいと判断した震災発生時
 - ・大雨、暴風で下校が困難である時
 - ・危険度が高い犯罪者が地域に潜んでいる可能性がある時

※大規模な地震など、想定以上の災害が発生した際には、児童を引き渡さず、保護者と一緒に学校に留まってもらう。

2. 目 標 安全を確保し、確実に保護者のもとに児童を引き渡す。
3. 流 れ ①1週間前10時にアンケートメールを配信する。
 ②引き渡し児童・いきいき児童・学童児童を把握（前日までに）
 ③引き渡し児童・学童等の児童の引き渡しを行う。
 ④いきいきの児童がいきいき教室へ行く。
 ⑤引き渡し訓練に参加しない児童が下校する。

4. 役割分担
 - 隊 長：学 校 長 … 統括的指揮
 - 副 隊 長：副校長・教頭 … 隊長の補佐
 - 誘 導・連 絡：教 務 … 保護者の誘導・連絡
 - 引き渡し確認：担任・特別支援学級担任

5. 引き渡し方

※教室後方の扉は施錠し、前方の扉のみで引き渡しを行う。

 - ①保護者は、前方の扉前で順番に待機してもらう。
 - ②担任が保護者と児童の確認ができたところから、すみやかに下校してもらう。
 - ⇒名簿でチェックして、児童本人に確認をしてもらう。
 - 確認ができれば児童と一緒に下校する。
 - ③いきいき児童を廊下にならべ、いきいきへ向かわせる。（同じ階の学年等で）
 - ※難しい場合は、職員室へ連絡ください。
 - ④引き渡し訓練に参加しない児童を下校させる。

引き渡し訓練の流れ

1週間前 (10:00)	ミマモルメ配信
前日中までに	アンケートメールを見て、引き渡し方法を確認しておく。
8時30分	出席確認・健康観察
13時50分	【5時間目の学習】
14時35分	5時間目終了 帰りの用意
14時45分	<p>【引き渡し訓練開始】</p> <p>「今から、引き渡し訓練を始めます。」</p> <p>【保護者への引き渡し開始】</p> <p>「保護者の方は、教室前方の扉前で、順番にお待ちください。学級担任が保護者と児童が確認をとれたところから下校が可能です。引き渡しが完了したら際は、すみやかに下校するようお願いいたします。お家が学校の南側にある方は、南門からお帰りください。」</p> <p>「いきいき活動・学童に行く児童、まだお迎えに来ていない児童は、そのまま教室で待ちましょう。」</p> <p>※各学級担任が保護者の方と児童を確認し、下校開始する。</p> <p>下校完了⇒空いている職員で校区巡視</p> <p>※いきいき児童について</p> <p>引き渡しがある程度終了したクラスから、いきいき教室へ移動（同じ階の学年等で）</p> <p>いきいき児童もいきいき教室へ移動完了</p>
※引き渡す相手 ・保護者本人 （入校証） ・保護者ご友人 （入校証） ・学童、放課後デイの指導員 （職員証）	
15時15分頃	<p>下校完了予定</p> <p>※教職員は、下校完了後管理職へ報告</p> <p>引き渡しに参加できない児童・ミマモルメで連絡がない児童の対応 ⇒ 一人下校</p>

実践事例 11 小学校 地域合同防災訓練

- 1 目的
 - 様々な災害が起きた時、自分の生命を守るための基本的な行動を理解し、的確に実行できるようにする。
 - 自分たちの生活は、地域の方や様々な方に守られていることを実感することや、自分たちが地域の一員であることを自覚できるようにする。
- 2 日時 令和○年○月○日(○)8:30~11:20
- 3 場所 ○○小学校 運動場・多目的室・各教室
- 4 訓練内容

時間	活動内容						
7:30~ 8:30~	消防署員、自衛隊、準備 ○児童は通常登校。地域、訓練準備。 ○地域参加者は学校に集合。地域役員は受付・設営						
9:00~	開会式 進行:教頭 ○地域・1~6年児童参加:運動場(朝会の並びで中央に寄る) *関係者あいさつ(町会長・校長・園長・区長)						
	【防災実技訓練】 ※全学年、水筒持参						
	幼稚園	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9:10 ~9:40 (30分間)	消火体験 ↓ 煙体験	防災クイズ (各教室) オンライン		緊急車両 見学	防災クイズ (各教室) オンライン	車いす体験 (1・2組から) 消化体験 (3組から)	起震車 (1・2組から) 救命体験 (3組から)
	10分(休憩・移動)						
9:50 ~10:20 (30分間)	防災クイズ (1年3組) オンライン	煙体験 ↓ 消火体験	緊急車両 見学	防災クイズ (教室) オンライン	簡易担架作成	起震車 (1・2組から) 救命体験 (3組から)	消火体験 ↓ 煙体験
	10分(休憩・移動)						
10:30 ~11:00 (30分間)	緊急車両見学		煙体験 ↓ 消火体験	消化体験 ↓ 煙体験	救命体験 (1・2組→3組)	防災クイズ (教室) オンライン	簡易担架 作成
	15分(休憩・移動)						
11:15~	閉会式 ○地域・1~6年児童参加:運動場(朝会の並びで中央に寄る) *訓練講評(淀川消防署長)						
11:20~ 11:30~	○解散 ○児童は教室へ ○児童、下校						

【訓練項目・担当者・場所・内容】

訓練項目	担当者 ※	場所	内容
クイズ	区役所	各教室	・「防災クイズ」
起震車	消防	運動場	・震度6程度の揺れの体験
消火体験	消防	運動場	・水消火器による体験
緊急車両見学	消防・自衛隊	運動場	・車両の役割・デモンストレーション ・装備(リュック)説明 ・活動内容や体験談、思い・質疑応答 ・パネル展示
煙体験	消防	運動場	・状況説明・避難方法 ・スモークテント歩行
救命体験	消防	運動場	・救命処置の重要性 ・「あっぱくん」80体による体験
車いす体験	区社会福祉協議会	運動場	・車いすを押したり、車いすに乗ってみたりする。 ・パネル展示
簡易担架作成	消防	多目的	・簡易担架の作成 ・負傷者搬送
ダンボールベッド	地域	講堂前	・ダンボールベッドの展示
災害用トイレ (ドントコイトイレ)	区役所	音楽室	・災害用トイレ(ドントコイトイレ)の設営と説明 ※オンライン

※担当者・地域、控室：理科室。区役所職員・地域防災リーダーは補助。

【地域防災訓練】

防災クイズ・起震車・消火体験・緊急車両見学・煙体験・救命体験・車いす体験・簡易担架作成
ダンボールベッド・災害用トイレ(ドントコイトイレ)

【準備：学校側】

- 運動場：放送室マイク(2)、マイクスタンド、ワイアレスアンプ、
スピーカ付きマイク(3)、ブルーシート(2)、長机(2)

【先生方へ】

- 起震車体験、煙体験は4人ずつ行う。
- 幼稚園、1・2年生の消火体験は、地域防災リーダーのサポートのもと実施する。
時間的に体験が難しい場合は、使い方の説明を聞いて代表者数名のみ体験する形になる可能性もある。
- 5年生の車いす体験は、2人1組で行うため、事前に2人のグループを作っておく。
- 各時間の体験後、時間が空いているようであれば、空いているブースを体験してもよい。
- 地域の方も体験するため、ゆずり合って体験するようにする。

実践事例 12 小学校 避難訓練「地震・津波」 880 万人訓練

1. 日 時 令和〇年〇月〇日(〇) 10:00~
予備日:〇月〇日(〇) 10:00~

2. 想 定

- 南海トラフ巨大地震の発生(大津波警報発表)

3. 目 標

児 童・・・避難経路の確認。津波による危険から身を守るための方法について知る。
集団で協力し合って安全かつ迅速に行動する。

教職員・・・避難経路の確認。大津波警報発表時の対応の確認、役割の確認。

4. 注意事項

- 使用中の火気の消火・教室の電気を消灯し、扉を開けて避難通路を確保する。
- 児童が校舎内の教室、トイレ、階段などに残っていないことを必ず確認する。
- 担任は学年児童の名前を確認できる名簿を持ち、児童の人数を確認し、異常の有無を学年主任に連絡する。
- 学年主任は、学年の人数と異常の有無を本部まで知らせる。
- 防災バッグは持参し、学年主任と校舎内見回りの先生はトランシーバーの電源はオンにする。
- ※事前にトランシーバーの電池が充電されているか確認しておく。
- 養護教諭は、担任不在時に人数点呼ができるように健康記録簿を避難場所(運動場)に持ち出しておく。
- 配慮を要する児童の避難方法については、前もって打ち合わせしておく。
- 校舎内見回りの先生は必ずペアで行動する。
- 担任は学年カラーのゼッケンを着用する。(管理職は赤色)

※トランシーバーについて

チャンネル3 集約担当:対策本部 教頭

⇒混線した場合は、途中からチャンネル変更するなどの対応を考慮する。

(今後は、混線した際の対策として、各場所に拡声器を設置することを検討している)

不審者侵入、および地震等の自然災害が発生したときの情報共有手段として、各学年に少なくとも2台、安全主任、管理職にトランシーバーを配備している。(場所によってはつながらない場合がある)

○文言例

③ 「こちら〇〇(所属、名前)です。△△先生、応答願います。」

・個々のやり取りが必要な場合は、必ず自分の所属と名前を伝えた上で、連絡したい教職員の名前を挙げる。

④ 「こちら〇〇(所属、名前)です。各学年の児童の人数を確認してください。」

「△年、了解しました。」「△年、□□人そろいました。」

「〇〇です。△年□□人、了解しました。」

・校舎内で十分に電波が届かない事例も報告されているので、情報を復唱するようにして確認する。

5. 避難訓練の流れ

	<p>【事前指導】</p> <p>NHK for school を視聴する。</p> <p>詳細は、後日連絡。</p>
--	---

9:45	<p>【訓練の事前校内放送】 大阪市の放送の前に校内放送（教頭先生） 「OKH（〇〇緊急放送）、OKH（〇〇緊急放送）、10時より避難訓練を始めます。 放送をしっかりと聞き、速やかに行動しましょう。」</p>
9:50	<p>【訓練の事前放送（防火行政無線）】 「上りチャイム4音」 「こちらは大阪市です。本日午前10時から大阪880万人訓練の実施に伴い、防災行政無線による 訓練放送を行います。」（2回） 「下りチャイム4音」</p>
10:00	<p>【地震発生】 大阪市の防災行政無線（屋外スピーカー）から緊急地震速報の音声流れます。</p> <p>「上りチャイム4音」 「こちらは大阪市です。只今から訓練放送を行います。」（2回） 「緊急地震速報チャイム音」 「訓練・緊急地震速報 強い揺れに備えてください。」（2回） 揺れから身を守るために、机の下に隠れる。 「こちらは大阪市です。訓練放送を終わります。」 「下りチャイム4音」</p>
10:02	<p>【一次避難：校庭】⇒対策本部を保健室前に設置する。 「OKH（〇〇緊急放送）、OKH（〇〇緊急放送）、揺れがおさまりました。児童は運動場へ避難しな さい。」</p>
10:05	<p>【大津波警報発表】 大津波から避難を呼びかけるサイレンが、大阪市の防災行政無線（屋外スピーカー）から放送され ます。</p> <p>「上りチャイム4音」 「こちらは大阪市です。只今から訓練放送を行います。」（2回） 「サイレン3秒吹鳴」 2秒休止 「サイレン3秒吹鳴」 2秒休止 「サイレン3秒吹鳴」 「訓練、大津波警報、大津波警報、ただちに丈夫で高い建物の3階以上等へ避難してください。」（2 回） 「これは訓練放送です。これで訓練放送を終わります。」 「下りチャイム4音」</p>

【安全確認後⇒二次避難】

・学級担任は人員確認し、学級担任⇒学年主任⇒対策本部（ホワイトボード）の順に報告する。

ホワイトボードに記入する内容

【報告内容：①学年学級名 ②児童数（インター児童含む・欠席の有無）

③行方不明などの異常の有無】

・対策本部は、ホワイトボードをもとに、**現状把握**をする。

・行方不明者などがいる場合

⇒救助班は、行方不明者を検索する。 ※トランシーバーをもっていく。

それ以外の先生方の誘導で、

2次避難開始 2・4・5年・・・東・北校舎

1・3・6年・・・西校舎

対策本部：渡り廊下へ移動する。

※トランシーバーで情報を共有し、落ち着いて児童誘導、人数点呼

10:20

【安全確認】

・学級担任は人員確認し、学級担任⇒学年主任⇒管理職の順に報告する。

【報告内容：①学年学級名 ②児童数（インター児童含む・欠席の有無） ③異常の有無】

チャンネル3 集約担当：対策本部 教頭

・怪我をした児童の対応。（対策本部付近・救護班の先生）

・避難が完了した児童がその場で静かに落ち着いて待機できるように監護。（児童対応班の先生）

・児童、校内の安全確認をし、確認がとれたら訓練を終了する。

【解散後⇒講評】

2次避難終了後は、教室に戻りテレビ放送にて講評をさせていただきます。

テレビのご準備をお願いいたします。

※実際の災害時を想定した訓練を実施します。

それぞれの臨機応変なご対応が必要となります。

案件通りには思わず、ご自身のご判断で行動していただければと思います。

OPPシート

月 日 ()

○めあて

○気づき・考えたこと

○できたこと

放送をよく聞いて行動できた

すばやく行動できた

周りの人をおしていない

()

○次に生かしたいこと・家族で話したいこと

月 日 ()

○めあて

○できたこと

放送をよく聞いて行動できた

すばやく行動できた

周りの人をおしていない

()

月 日 ()

○めあて

○できたこと

放送をよく聞いて行動できた

すばやく行動できた

周りの人をおしていない

()

実践事例 13 中学校 授業実践「地震」

1. 対象・・・中学校
2. 題材 「地震に対する防災意識を高めよう」
3. 学習のねらい 地震発生メカニズムをはじめとして、地域の災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解する。
 避難訓練や防災体験学習を通して、非常時における危険を認識し、状況に応じて、的確な判断のもと、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
 災害に対する日常的な備えや学校、地域の防災被害時のボランティア活動の大切さについて理解を深める。
4. 学習展開の例

主な学習内容と活動	指導上の留意点（教科等との関連）
<p>1. 大阪市における自然災害（地震等）や地震発生メカニズム等について知る。</p> <p>○大阪市（住んでいる地域）における過去の自然災害（地震等）や今後予想される地震（東海・東南海・南海）について調べる。</p> <p>○地震発生メカニズムや危険性等について知る。</p>	<p>・大阪市（住んでいる地域）における過去の自然災害（地震等）や今後予想される地震（東海・東南海・南海地震）について調べ、まとめられるようにする。</p> <p>インターネットの利用 防災センター、消防署、区役所、図書館等への訪問 地域のお年寄りからの聞き取り 等 （社会科、理科、総合的な学習の時間）</p> <p>・地震発生メカニズムや地震が発生した時の地面の揺れ方を理解し、住んでいる地域の土地の成り立ちや地面の地質について調べられるようにする。（社会科、理科、総合的な学習の時間）</p>
<p>2. 避難訓練・防災体験学習について</p> <p>○安全な避難行動について知る。</p> <p>○地震を体験し、防災について学ぶ。</p>	<p>・避難訓練を通して、災害時における安全な避難行動を確認する。</p> <p>学校で地震が発生した場合、教室、特別教室、廊下、階段、体育館、運動場などを想定して津波が発生した場合、校舎の3階以上に避難する（特別活動、総合的な学習の時間）</p> <p>・地域の体験型防災学習施設等を利用して、地震を体験させ、防災知識と技術について体験学習する。</p> <p>大阪市阿倍野防災センター等の活用</p>

	[地震災害体験ゾーン、防災学習ゾーン] (特別活動、総合的な学習の時間)
<p>3. 災害に対する日常的な備えや災害時におけるボランティア活動等について知る。</p> <p>○災害に対する日常的な備えについて考える。</p> <p>○応急処置の技能を身に付ける。</p> <p>○学校、地域の防災や災害時のボランティア活動の大切さを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・非常持ち出し品の準備や非常食等について確認し、日常的な備えについて考えられるようにする。 非常持ち出し品チェックリストの作成 非常食の調理・試食 (技術・家庭科、特別活動、総合的な学習の時間) ・応急手当の実習を行い、災害時の応急処置の技能を身に付ける。 止血法、包帯法、人工呼吸法 等 (保健体育科、特別活動、総合的な学習の時間) ・自他の生命尊重や社会への奉仕、公共の福祉と社会の発展に尽くすよう努める心の育成を図る。 地域防災マップの作成 地域の防災訓練等への参加 等 (道徳、特別活動、総合的な学習の時間)

実践事例 14 中学校 避難訓練「地震」 体験活動

1. 日時 令和〇年〇月〇日(〇) 13:10~14:40 ※雨天決行
* 45分×6の日程
2. 目的 地震による火災発生時に、指示にしたがい安全かつ迅速に避難できるようにする
災害について学び、非常時に対応できる技術を身につける
3. 服装 **体操服** ※給食終了後更衣
4. 当日の流れ ※雨天時は運動場での集合なし

8:30 朝学活で出欠確認

防災 MAP 配布

* 避難訓練の意義や体験内容についての説明

12:50 更衣 (13:00まで)

13:10 サイレン10秒→放送(教頭)

【放送内容】

「地震発生、地震発生。全員すぐ机の下にかくれなさい。」

「地震により1階電気室から火災が発生しました。担任の先生の指示をよく聞いて、速やかに運動場へ避難してください。」 *ここから計測 start

【生徒の動き】

1. 机の下に隠れる
2. 放送の指示ですぐにハンカチを用意して口にあてる。
廊下に委員長を先頭に2列に並ぶ。カギは閉めない
3. 並んだクラスから避難経路に沿って急いで避難する(集会と同じ階段を使う)
*校舎内は走らない。グラウンドにでてから急ぐ。出席簿を持つ



雨天時は、

「以上で地震による避難訓練を終わります。各学年防災体験場所へ移動してください。」

という放送で、廊下に整列しそれぞれの体験場所まで移動開始する。

13:15 運動場で整列(雨天時なし)

集合 ⇒ 整列 ⇒ 点呼(委員長 → 担任 → 学年主任 → 教頭)

13:20 学校長による講話(雨天時なし)

→講話終了後、司会から指示

「1年生は各担任の先生の指示に従ってください。2年生はその場で待機してください。3年生は、1組から順番に体育館へ移動してください。」

13:25 各学年に分かれ実習(約75分)

- ・1年生…起震車体験、水消火器(格技室前)、災害に関するDVD視聴(多目的室)
- ・2年生…可搬式ポンプ体験(保健室前運動場) 放水体験(プール)
- ・3年生…救急救命講習(AED体験)(体育館)

	通常メニュー	雨天メニュー
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車体験 ・水消火器 ・災害に関する講話（DVD） 	<ul style="list-style-type: none"> ・応急処置講習（消防） ・水消火器 ・災害に関する講話（DVD）
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・可搬式ポンプ体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・可搬式ポンプ体験 ・けむり避難体験（雨天）
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命講習（AED体験） 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命講習（AED体験）

- 14：40 体験終了後 教室に戻り更衣、
 体験に関する感想文記入（全校）
 終学活後下校（各学年体験終了時間は異なる）
 ※全学年の体験が終了してから下校させる
 ※そうじなし

5. 当日までの予定

- ① 消防・区役所との連絡・打ち合わせ 5/7（水）12:00
- ② 必要備品搬入（消防） 6/5（木）16:00
 - ・体育館、1F 家庭科準備室
 - ・南門から車両が入ります・グラウンドを通ります。
 部活動中と思いますが、ご配慮よろしく申し上げます。

6. 当日の役割

- ・集合・指揮（ ）
- ・司会・進行（ ）
- ・サイレン（ ）
- ・緊急放送（教頭）
- ・タイムキーパー（ ）
- ・放送準備（ ） 必要ならハンドマイク用意
- ・南門開閉（ ）
- ・人数確認（各担任→学年主任→教頭）
- ・体育館プロジェクター関連準備（3年職員）
- ・多目的室プロジェクター関連準備（1年職員）
- ・プール扉開閉（ ）
- ・足ふきマット準備（ ） 近くの階段のマットを起震車付近に持ってくる
- ・最終打ち合わせ（ ， ， ）

※12:30 ごろ来校

消防署：起震車1台、消防車1台、ワンボックスカー2台

区役所：軽四1台

7. 体験実習に関する連絡

1年…起震車体験・水消火器体験、災害に関する講話+DVD視聴

※起震車体験は消防の方が、**災害に関する講話は区役所の方が**行います

※当日、防災マップを配布してください。

○**クラスごと**に体験する（担任引率の元移動してください）

1組…起震車（会議室前）→水消火器（格技室前）→講話（多目的室）

2組…講話（多目的室）→起震車（会議室前）→水消火器（格技室前）

・講話とDVD…約25分 ⇄ 起震車、水消火器…約25分

・**起震車体験は1グループ4名（前もって決めておく）**

・**雨天時は起震車体験→応急処置講習（格技室）に変更**

・水消火器は格技室前にて放水（格技室前の水道を使用）

※**多目的室、起震車、水消火器体験担当の教員を学年で決めてください**

・雨天時の応急処置講習は消防の方が進行してくれます

2年…可搬式ポンプ体験、放水体験 ※進行は消防の方が行います

1組…放水体験（プール）→可搬式ポンプ（グラウンド）

2組…可搬式ポンプ（グラウンド）→放水体験（プール）

・可搬式ポンプ体験2人1組（7～8kgあります） 待機は廊下など日陰で

・雨天時は放水体験が、けむり体験（購買横）・可搬式ポンプ（会議室前廊下）になります

3年…救急救命講習・AED体験 ※進行は消防の方が行います

○**学年で体験する**（担任引率の元移動してください）

AED体験（体育館）

・体育館シューズ持参

・体育館に移動後、クラスごとに2列で整列

・間隔をあけること

実践事例 15 中学校 避難訓練「地震・津波」

日時	令和○年○月○日（○） ○時○分	
災害の想定	午後○時○分に強い地震が発生し、津波発生の可能性はある。安全な場所へ避難する必要がある。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波の恐ろしさを知り、自分たちの命を守るための避難行動を理解し、的確な判断で行動できる態度や能力を身に付ける。 ・教職員の指示を聞き、地震発生後や津波警報発生後の避難の仕方を知り、速やかに避難できるようにする。 ・教職員が近くにいらない場合、自ら状況を判断し避難行動をとるとともに、自助・共助を心がけられるようにする。 	
内容	教職員の指示・措置	留意事項
1. 事前指導	<p>○避難訓練の予告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常ベル ・緊急放送 <p>○避難行動について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路 ・集合場所 <p>○地震発生時の基本行動について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭を保護するために、近くにある台などの下に避難する。近くに避難できる物がない場合、「落ちてこない」「倒れてこない」場所を探し、その場に身をよせる。 ・教室等では、素早く出入り口を開け、避難口を確保する。 ・揺れがおさまるまで待つ。 ・教職員がいれば指示を聞く。近くにいらない場合、放送等の指示や周囲の状況から自ら判断し頭部を保護しながら、素早く避難場所に移動する。 ・津波警報が発令した場合、建物の3階以上に避難する。外で活動している者も、速やかに移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の目的・意義等について正しく理解し、真剣な態度で取り組むことができるようにする。 ・過去の避難訓練を振り返り、問題点等について点検する。 ・「押さない、走らない、しゃべらない」を徹底する。 ・配慮を要する生徒の避難方法については、教職員間で十分に共通理解をはかる。 ・地震発生時、津波警報発令時の基本行動の重要性について具体的に説明する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・津波がおさまるまで、待機する。 ・津波警報が解除され、安全確認をしてから、余震のため外へ避難する。(避難訓練では、再度外への避難は省く) 	
<p>2. 地震発生</p>	<p>○指示</p> <p>「大丈夫、静かに、落ち着こう」 「机の下に避難し、頭を保護しなさい」</p> <p>※屋外や廊下等で活動している場合</p> <p>「落ちてくる物や、倒れてくる物の近くから離れなさい。」</p> <p>○措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内では窓やドアを開け、出口の確保を行う。 ・電源を切り、ガスの元栓を締める。 ・館内放送の避難指示に従い、避難・誘導の準備を行う。 ・廊下や屋外等では、上から物が落ちてこない、倒れてこない場所を自ら見つけ、身を低くして揺れがおさまるまでじっとしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で明確に指示する。 ・窓際、廊下付近の生徒については、ガラス破損による怪我防止のため、離れさせる。 ・沈着・冷静に指示し、生徒の行動を把握する。
<p>3. 避難合図 (放送)</p>	<p>○指示</p> <p>「落ち着いて机の下から出なさい」 「怪我はありませんか」 「今から運動場に避難をします」 「廊下に出て、静かに並びましょう」 「今から避難場所に移動します。頭上に気をつけて、走らないで先生の後についてきなさい」</p> <p>※ 火災発生時</p> <p>「口と鼻をハンカチで覆って避難しなさい」</p> <p>※ 屋外や廊下等では、壁などの倒壊に気を付けながら、あらかじめ決められている避難場所に速やかに避難する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・負傷者の有無の確認をする。 ・頭を保護することが一番大切であることを知らせる。 ・避難方法・場所を明確に指示する。 ・隣接の学級と協力して、素早く安全に避難する。 ・人員確認を行い、教室や校舎に誰も残っていないか確認（声かけするなど）しながら避難する。

<p>4. 人員確認</p>	<p>○指示 「〇〇〇部は、ここに並びなさい」 「静かに座って待ちます」</p> <p>○措置 ・人員点呼する。ただし、部活動中であれば、部活動ごとに、休み時間であれば、学級ごとに整列させ点呼する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や部活動担当者は人員点呼を行い、部活動ごとでまとめ、速やかに本部に報告する。また、負傷者のある場合は、合わせて報告する。 ・勝手に校外に出たり、帰らないよう指示する。 ・生徒の精神的安定と集団的維持をはかる。
<p>5. 津波警報の発令 (二次避難)</p>	<p>○指示 「津波警報が発令されました」 「今から3階以上に避難します」 「頭上に気を付けて、走らないで先生の後についてきなさい」</p> <p>○措置 ・できるだけ混雑を避けるため、分散して階段を利用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波警報が発令されたことを知らせる。 ・部活動ごとに、3階以上に移動することを伝え、所定の教室・廊下等へ移動させる。 ・地震発生時と同じように、押さない・走らない・しゃべらないを守って避難する。 ・余震の発生の可能性もあるので、移動中も頭上に気を付けさせる。
<p>6. 人員確認</p>	<p>○指示 「ここに並びなさい」 「静かに座って待ちます」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や部活動担当者は人員点呼を行い、部活動ごとでまとめ、速やかに本部に報告する。また、負傷者のある場合は、合わせて報告する。 ・津波警報解除までには、時間がかかる場合が多いため、避難時間が長く、場合によっては1日間避難もありうることを伝える。
<p>7. まとめ</p>	<p>○係からの話（館内放送）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難時の行動の態度や避難の所要時間について話をする。 ・災害は、いつ起こるかかわからないため、その時の状況を各自が判断し、自らの命を守る大切さを伝える。 ・学校外で、災害が起こった時のことを想定し、通学路での避難場所等についても日頃から意識するよう話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全確認を行い、押さない・走らない・しゃべらないが守れたか、安全に気を付けて避難できたかなどについて話をし、生徒個々の反省の視点を伝える。 <p>《ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的、意義を正しく理解し、真剣な態度で適切な避難行動がとれたか。 ・協力しながら、安全に避難できたか。

	<p>○ 校長先生の話聞く。(館内放送)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難集合場所での整列、人員点呼、報告などが迅速かつ正確にできたか。等 ・良かった点や注意する点等、話をする。 ・地域では、年少児やお年寄りの方などへのボランティア活動に率先して参加し、活動できるよう心がけていくことを伝える。
--	--------------------------	---

《その他の留意点》

- 建物崩壊・倒壊などの危険もあるので、避難誘導の際には、様々な被害想定に基づいて計画を立てて実施する。
- 季節や9月1日の「防災の日」、1月17日「防災とボランティアの日」の行事などの関連及び地域の取組や実態を考慮して、訓練の計画を立てる。
- 災害時における生徒の心身のケアについて事前に研修を行っておく必要がある。
- 災害に備え、家庭との連絡体制を確立しておく必要がある。
- 家庭でも、普段から災害に備え、いざという時の心構えについて確認しておくことの大切さを啓発していく。また、中学生や高校生が、物資の運搬や、年少児、お年寄りの方などへの心身のケアを行っていき、率先してボランティア活動に参加できるよう指導計画を立てる必要がある。

実践事例 16 特別支援学級 授業実践「地震」

1. 対象・・・ 特別支援学級

2. 指導計画作成に当たっての留意点

特別支援学級における防災教育で大切なことは、まず、障がいのある子どもの状況やニーズを正しく認識し、次の2つの視点をもとに、より適切な防災教育を推進していくことである。

- ・一人一人の子どもの実態に応じた具体的な防災教育を進め、子どもが、自分自身への身近な危険の一つとして災害を認識し、「自分でできること」「他の人からの支援が必要なこと」等、災害から自らの安全や命を守る方法を着実に身に付けられるようにする。
- ・子どもへの防災教育のみならず、災害時の避難や連絡等の安全確保の体制について保護者に周知を図るとともに、地域社会や関係諸機関との連携を図る。

3. 目標

- 地震のメカニズム等、災害や防災について理解することを通して、災害発生時に自分自身の安全を確保することの大切さがわかる。
- 災害発生時の様々な危険を知り、自分自身ができることや他人からの支援が必要なこと等、災害から自らの安全や命を守るために必要な対処の仕方について気付き、災害（地震）発生に備えることができる。
- 災害から人々を守る体制があり、これらに従事する人々の願いや工夫に気付くとともに、自分自身も生活の中で生かそうとする態度を身に付けることができる。

4. 関連教科等 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、自立活動

5. 指導計画

主な学習内容と活動	指導上の留意点（教科等との関連）
1. 災害（地震）について学ぶ。 ○地震発生のしくみについて理解する。 ・プレート、活断層、内陸部地震 ○これまでに発生した地震について知る。 ・阪神淡路大震災 ・被害の規模や様子 ○震災と人びとの生活について知る。 ・被災した人々の生活の様子 ・発生時の人々の努力や工夫 （地震への日頃からの備え等）	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の様子及び災害の様子や発生のメカニズム等について、模型や写真資料や新聞記事等を活用して提示し、防災学習への関心を高めるようにする。 ・一人一人の子どもの障がい状況を踏まえた実態に配慮し、恐怖心だけを与える学習に陥ることのないようにするとともに、日頃からの備えが必要なこと等、自らの安全や命を守ることの必要性への自覚を高められるようにする。 （社会、理科、生活、特別活動、総合的な学習の時間、自立活動）

<p>2. 地震発生時の対処の仕方を学ぶ。 [避難訓練]</p> <p>○ 自分自身の安全を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全確保の手立て ・ 危険なものの把握 ・ 自分が必要なものの確認 <p>○ 地震発生後の2次災害について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災発生の防止 ・ 適切な避難の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示に従い落ち着いて必要な行動ができるように促す。 ・ 地震発生時に、まず身を守るために、「机の下にもぐる」「座布団等をかぶる」「倒れやすい本棚等のそばから離れる」などの注意をし、特に頭部を守ることの大切さを指導する。また、外出時は、「落ちてくるものから頭を守る」「ブロック塀や電柱、電線などの危険なところから離れる」「津波の恐れがある場合は、高い所へ避難する」等、具体的な事象に触れながら安全確保を促す。 ・ 地震では、その後に発生する火災や津波が原因となって大きな被害につながることに気付くようにし、発生後の適切な行動の必要性への関心を高められるようにする。 (社会、理科、生活、特別活動、総合的な学習の時間、自立活動)
<p>3. 安全確保に向けた人々の願いに気付く。 ○ 防災学習交流会をする。</p> <p>[ゲストティーチャー]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者 ・ 医師(学校医、主治医等) ・ 施設の方 ・ 消防署の方 ・ 地域防災センターの方 ・ 震災体験のある方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時に安全確保に取り組む人々や安全を願う人々の存在を知り、それらの人々から思いや願いを聞く場を設定する。 ・ ゲストティーチャーには、「安全確保に向けて大切にしていること」「子どもたちに願うこと」等について講話を依頼し、子ども自身が、安全確保の必要性をより自覚できるようにする。 ・ 子どもの安全を確保するために、災害時の避難や連絡等の安全確保の体制について、家庭、地域及び関係諸機関との連携を深める効果的な場となるように工夫する。 (社会、理科、生活、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、自立活動)
<p>4. 防災について振り返る。 ○ 防災学習を通して気付いたことや、今後自分に必要なことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時に自分はどうすればいいのだろう？何が必要なのだろう？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習や生活を振り返り、防災に向けて、今後自分ができるところをまとめ、話し合う場を設定する。 (生活、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、自立活動)

■防災教育の実践に向けた支援が必要な児童への配慮事項

①障がいの状況に応じた適切な防災教育

子ども一人一人の実態にを把握し、個々のニーズに応じてどのような支援が必要であるか日常から考えておく。

- 例えば
- ・自分で動くことができず、移動に車いすが必要
 - ・言葉でのコミュニケーションが困難
 - ・何らかの医療的ケアが常時必要

一人一人の障がいの状況は様々であるため、「災害発生時に子どもに必要な支援」や「子ども自身が気を付けるべきこと」等、について、個に応じた防災教育を進めることが大切である。

また、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を防災教育の観点で見直すことも大切である。

これらの工夫によって、子ども自身が防災への関心を高めることにつながる。

②保護者と連携した防災教育

災害が発生したときには、子どもの安全を確保することが、まず大切である。その次に、保護者に対して子どもの安全の状況を適切かつ迅速に伝えることが重要である。

そのためには、「災害発生時の避難体制」、「保護者との連絡方法」等について、あらかじめ保護者と共有しておくことも大切である。子どもの安全確保とともに、保護者が安心できる安全確保の体制を整えることが必要である。

③学校内の状況の再点検をすること

「子どもへの防災教育」、「保護者と連携した防災教育」は、災害発生時における子どもの安全確保の上で大切なことであるが、校内の整備状況も忘れてはいけない。地震がいつ起こるかを予測することは困難だが、地震が発生した時に迅速かつ適切に対応し、より一層の安全を確保するために、日ごろから災害への備えをしておくことは大切である。例えば、「災害発生時にも、安全を確保できる教室環境であるか」「廊下は車いす等が通行できる通路が確保されているか」「緊急時に必要な校内の各種防災設備・機器の状況はどうか」等、今一度、学校内を点検・整備すべきである。

特に、医療機器の電源確保等、「特別な備え」が必要な場合においては、留意する必要がある。

また、緊急時にあわてることのないよう利用研修を行うことも必要である。

【参考資料】

「障がいのあるこどものための防災対策」

インクルーシブ教育推進担当
特別支援教育研修・支援グループ

実践事例 17 特別支援学級 避難訓練「地震・津波」

特別支援学級

日時	令和〇〇年〇月〇日 (〇) 〇時〇分～〇時〇分	
災害の想定	午前〇時〇分に強い地震が発生。津波発生の可能性あり。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時および津波警報発令の際に、児童・生徒の障がいの状況に応じて、安全かつ迅速に誘導、避難させることができるようにする。 ・災害発生時における教職員の救援体制を確認し、各々が連携して一連の安全確保ができるようにする。 ・子どもの安全状況や家庭等への連絡体制を再確認し、課題を整理する。 (以上、教職員) ・緊急時であることがわかり、教職員の指示に従い整然と行動できるようにする。 ・避難方法や避難場所がわかり、緊急時に適切に行動できるようにする。 (以上、子ども) 	
内容	教職員の指示・措置	留意事項
1. 事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練の予告をするとともに、地震やその後の対処について確認する。 ○避難訓練の合図をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの障がいの状況に応じて適切に行動できるように配慮する。 ・必要に応じて、日頃から子どもの状況を教職員間で情報共有できる体制の構築に努める。 ・「押さない、走らない、しゃべらない」を守って避難させる。
2. 地震発生	<ul style="list-style-type: none"> ○校内放送または、非常時連絡設備で、地震の発生を連絡する。聴覚障がい等、障がいの状況に応じて、音声以外の連絡方法について工夫する。 ○「避難訓練。避難訓練。大きな地震が発生しています。教職員は子どもの安全確保をお願いします。子どもたちは、先生の指示に従い、机の下に入るなど身の安全を守りましょう。」と指示する。 ○次の連絡があるまで、静かに指示を待ち、安全確保を続ける。 ○火災発生時の連絡体制の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの障がいの状況に応じた安全確保に努め、机の下に入る等の身の安全を確保できているかを確認し、子どもがすべき初期避難の行動について徹底できるようにする。 ・緊急な配慮が必要であれば、本部へ連絡する。 ・大きな揺れが収まったら、子どもの安全を確認するとともに、電気や火の元を確認する等、二次災害の防止に努める。
3. 避難合図	<ul style="list-style-type: none"> ○放送または、非常時連絡設備で、避難開始を知らせる。 ○避難の際には、「地震による大きな揺れは収まりました。安全に気を付けて避難を開始してください。おさない・はしゃがない・しゃべらないの約束を守りましょう。」と指示する。 ○隣接学級で連携する等して、子どもを 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難本部を設置する。 ・人員確認に必要な出席簿（児童・生徒名簿）を確保し、持ち出す。 ・個々の子どもに必要な常備薬等を持ち出す。 ・避難誘導班は、避難経路を確保する。 ・避難経路は、原則をもとに状況に応じて適宜変更する等して、子どもの障がいの状況

<p>4. 人員確認</p>	<p>安全な場所へ誘導する。 ○人員確認と報告を行う。(出席数、欠席数等)</p>	<p>に応じた安全確保に努める。 (例:クラッチの使用等子ども自身による移動が困難な場合は、車椅子の使用も含め事前に検討しておく。) ・避難場所支援班は、集合者の誘導・整理、必要な支援を行う。</p>
<p>5. 津波警報の発令 (二次避難)</p> <p>6. 人員確認</p>	<p>○「津波警報が発表されましたので、3階以上の教室・建物に避難します。頭上に気を付けて、走らずに移動しましょう。」と指示する。 ○隣接学級で連携し、一人一人の状況を確認しながら安全な場所へ誘導する。 ○再度の人数確認と報告を行う。(出席数、欠席数等)</p>	<p>・津波警報が発表されたことを知らせる。 ・3階以上の教室がない場合は、近隣の3階建て以上の建物に避難させる。 ・避難誘導班は、避難経路を確保する。 ・余震の可能性もあるので、移動中も頭上に注意させる。 ・事前に津波発生時の避難場所について、車椅子での避難が可能か、また安全柵の設置の有無等も含めて確認しておく。</p>
<p>7. まとめ</p>	<p>○「避難訓練でうまくできたと思うことは何ですか？不安なことは何ですか？」と問う等して、所要時間や反省点を整理・確認するとともに、避難訓練を安全にやり遂げたことを称賛し、成就感を味わわせることに留意する。 ○教室に戻り、感想を話し合わせ、次回に生かす。 ○避難訓練をふり返り、災害発生時の自分のすべき行動についてまとめさせる。 ・自分なりにできたこと ・安全、指示に従いできたこと ・不安なこと、支援が必要なこと ○「今回の避難訓練を通して、災害時に自分に必要なことがわかりましたか？」と問う。 ○家庭への連絡体制を確認する。(メール連絡システム等を活用して迅速・適切に行う体制を築く。) ○実際の災害発生時に連絡の必要な関係機関(消防署、教育委員会、医療機関、区役所等)との連絡体制について、確認・点検を行う。</p>	<p>・教室での様子、避難の様子、集合の様子等、子ども一人一人に訓練の様子を伝える。 ・必要に応じて、保護者参加の避難訓練を実施する。 ・事後にアンケートをとる等、避難訓練の成果と課題を見つけ、職員間で課題を共有する。 ・子どもの感想を生かし、今後必要な配慮や体制整備を確認する。 ・関係機関や保護者との連携・連絡を確認する。 ・メール連絡に登録していない家庭への連絡を確実にを行う。 ・実際の災害発生時を想定して、保護者への児童・生徒の引き渡し時期や方法についても検討・確認を行う。 ・校内非常時用設備を点検する。 ・避難期間の長期間化を想定し、吸引器の電源の確保等、一人一人の障がいの状況に応じた対応策について保護者等と連携し、検討しておく。</p>

実践事例 18 幼小連携 合同避難訓練

日時	令和〇〇年〇月〇日 (〇) 〇時〇分～〇時〇分	
災害の想定	午前〇時〇分に強い地震が発生。南海トラフ地震 (マグニチュード9.0) により、それに伴う津波の発生が予想され、安全な場所に避難する必要があります。	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 地震や津波から、自分の生命を守るための基本的な行動を理解し、的確に実行できるようにする。 指導者の指示を聞き、速やかに行動できるようにする。 隣接幼稚園も参加し、避難経路等の確認を行い、安全に避難できるようにする。 	
内容	教職員の指示・措置	留意事項
1. 事前指導	<p>○避難の仕方について</p> <p>○避難経路の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地震発生と同時に、頭部を保護するために机の下に入り、机の脚を両手で持ち、机の裏を頭で支えて3点で支える。(地震発生時に教室にいた場合) ゆれがおさまるまで、その体勢で待つ。 次の指示をしっかりと聞く。 避難の合図とともに、先生の誘導に従って速やかに避難する。 「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」の話をする。 防災頭巾を使用する。 どの避難経路を使用し、どこに集まるのか。 今回は冬の避難の為、防寒着を着用すること、二次避難の必要性について十分に理解させておく。
2. 地震発生	<p>○「これから、避難訓練をします。放送をよく聞いて、先生の指示にしたがって行動しましょう。」</p> <p>○「ただ今、地震が発生しました。その場で身を守る行動をとりましょう。」</p> <p>○「ゆれはおさまりました。先生の指示にしたがって、運動場にすみやかに避難しましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 机の下に身を隠し、机の脚を両手でしっかり持ち、頭でも支えるよう声をかける。(3点で支える。) 出入口の確保のため(可能であれば)ドアを開ける。 防災頭巾、防寒着を着用し、上靴を履いたまま避難する。 担任は防災バッグを持ってヘルメットを被り避難する。 避難経路にしたがって、順序よく移動するように指示する。 「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」

<p>3. 避難合図</p> <p>4. 人員確認</p>	<p>○「ゆれはおさまりました。先生の指示にしたがって、運動場にすみやかに避難しましょう。」</p> <p>運動場への一次避難</p> <p>○2列で整列させ人数の確認をして、担任が教頭に報告。</p> <p>※隣接の幼稚園園児教職員も本校運動場に避難。そろい次第、教頭に報告がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災頭巾、防寒着を着用し、上靴を履いたまま避難する。 ・担任は防災バッグを持ってヘルメットを被り避難する。 ・避難経路にしたがって、順序よく移動するように指示する。 ・「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」 ・避難終了後、直ちに人員確認をする。教頭へ報告する。 (例)「○年○組 欠席△名で 残り□人集合しました。」 ・残留児童の有無を確かめ移動する。 ・人員報告をした先生が、そのクラスの家庭連絡票を取りに来る。
<p>5. 津波警報の発令 (二次避難)</p> <p>6. 人員確認</p>	<p>二次避難場所への避難</p> <p>○「ゆれはおさまりましたが、津波警報が発令されました。担当の先生方は避難経路の安全確認をお願いします。」</p> <p>○避難経路図に記入してある担当場所を、担当教員が確認を行う。(通行可能かどうか)</p> <p>※特別教室の鍵、トランシーバーを各学年・幼稚園に渡す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確認終了次第、直ちに避難を始める。 ・避難終了後、人員確認をし、各学年主任へ連絡する。 ・学年主任は、トランシーバーで本部に連絡を入れる。幼稚園は、内線で本部に連絡を入れる。 ・例「こちら○年生です。避難完了です。どうぞ。」「こちら本部です。了解。」
<p>7. まとめ</p>	<p>○「今から教室でお話を聞きます。順序よく移動しましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室での様子、避難の様子、集合の様子等子ども一人一人に訓練の様子を伝える。

実践事例 19 幼小連携 合同避難訓練

避 難 訓 練 計 画 書		大阪市立〇〇幼稚園
日 時	令和〇年〇月〇日 (〇) 予備日〇日 (木) 〇〇小 9:55~10:25 の訓練に参加	
訓練内容	地震・津波	二次避難場所 〇〇小学校
ねらい	共 通 ・非常ベルや放送を静かに聞き、先生の指示や約束を守って速やかに避難する。 5歳児 ・津波発生時の〇〇小学校への避難の仕方を再確認する。 3・4歳児 ・津波発生時の〇〇小学校への避難の仕方を知る。	
時 刻	予想される幼児の活動	教職員の配慮
9:45	☆事前に地震時の避難の仕方や、津波発生時の二次避難場所への避難の仕方について話を聞き、防災座布団のかぶり方を身につけておく。 ☆東日本大震災や阪神大震災の話を聞く。 ○保育室で担任と一緒に待機しておく。 ①放送1を聞く。(養護教諭) 「今から、地震と津波が起こった時の練習をします。」 ②放送2 地震がきたという合図として、非常音を放送から流す その後放送。(養護教諭) 「地震が起きました。頭を守って揺れが収まるまで待ちましょう」 ③教師の指示を聞き、頭を守る姿勢をとる。 ④放送3を聞く。 「地震の揺れが収まりました。先生と一緒に避難しましょう。避難訓練スタート」 放送後時間計測 ⑤防災座布団をかぶり、近くの出口から園庭中央に避難する。 <いちご>いちご組前ウッドデッキ <ゆき>ネット階段横ウッドデッキ <ほし>靴箱前ウッドデッキ <そら・つき>職員室前テラス (人数確認・報告)	・避難経路が確保されているか、危険なものがないかなど、日頃から確認しておく。(廊下、テラス) ・放送の音量を確認しておく。 ・北門~〇〇駅~〇〇小学校の避難通路を確認しておく。 ・訓練に不安を感じないよう、津波発生時の行動について話し合いの時間をもっておき、二次避難場所への避難の仕方などを知らせておく。 ①放送1を静かに聞く。 ②③ベルと放送2を聞くと共に机の下に隠れ、姿勢を低くして待機する。 ④放送3後、防災頭巾をかぶり、担任と一緒に避難。担任は、電気を消して扉を開け、避難袋(クラス旗、防災頭巾)を持ち避難。 ⑤「お・は・し・も(押さない・走らない・喋らない・戻らない)」を再認識させる。 ・配慮を要する幼児の把握をする。 ・集まった順に並び、静かに座って待つ(お尻は地面につけない)。先に並べたクラスの担任は他のクラスの補助をする。 人数点呼後、園長先生に報告する。
9:50	⑥園長先生の話を書く。 「津波警報が発令されました。〇〇小学校へ避難	

<p>9:55</p> <p>10:05</p> <p>10:15</p>	<p>「します。担任の先生と非難しましょう。」</p> <p>放送後時間計測</p> <p>⑦担任を先頭に、クラスでペアになり〇〇小学校へ避難 そら・いちご→つき・ゆき→ほし</p> <p>(小学校が 9:55 地震発生に合わせて避難訓練をしており、運動場に集合している。)</p> <p>運動場西校舎側にクラスごとに2列に並ぶ (別紙小学校資料参考) (人数確認・報告)</p> <p>校長先生のお話をきく</p> <p>→校舎4階に避難放送後時間計測</p> <p>⑧小学校の児童の流れと共に、西校舎①号階段の内側を通り、列になって4階学習室・廊下へしゃがませる。1号階段外側は1,4年が使う。</p> <p>(人数確認・報告)</p> <p>そら・つき：廊下 ほし・ゆき・いちご：教室内</p> <p>小学校の放送をきく</p> <p>「津波警報は解除されました。幼稚園のみなさんは先生の合図で幼稚園に戻りましょう。小学校の皆さんは、先生の指示に従い教室に戻りましょう」</p> <p>⑨園長先生の指示に従い幼稚園園庭に戻る。 (開門 事業担当主事)</p> <p>(人数確認・報告)</p> <p>⑩園庭で園長先生の話聞く。 ○保育室に戻る。(上靴をよく拭く)</p>	<p>⑦交通安全に十分配慮しながら、速やかに避難できるように誘導する。</p> <p>集まった順に並び、園長先生に人数報告。</p> <p>⑧小学校の先生の指示に従って4階に避難。階段時、配慮の必要な子どもの位置を把握。4階につくと端により、静かに座って待つ。先に並べたクラスの担任は他のクラスがスムーズに並べるよう補助をする。先に来たクラスから学習室に入り、人数を見て後から来たクラスは廊下で待機。人数点呼後、園長先生に報告する。</p> <p>⑨帰りも気を引き締め、安全に戻れるように子どもに声をかけ、配慮する。</p> <p>⑩落ち着いて話を聞けるようにする。保育室でも振り返りの時間をもつ。</p>
<p><小学校との事前打ち合わせ> 計画案を事前にファックスする</p> <p><役割分担></p> <p>園長：指示、避難袋（非常用名簿）持出 職員室の火のもと確認・消す、職員室・園長室、電気を消す</p> <p>ストップウォッチでタイム計測</p> <p>担任：クラスの子どもの避難誘導、保育室の電気を消す 避難通路の事前確認</p> <p>担当：持ちだし書類の事前確認 人数確認用紙を準備→園長先生に渡しておく</p> <p>養護教諭：非常用の放送、救急箱の準備、保健室の子どもの避難誘導</p> <p>保健室火のもと確認</p> <p>支援担当：2階（遊戯室、便所等）の残留児確認、配慮を要する幼児の避難誘導</p> <p>みんなの先生：1階（遊戯室、便所等）の残留児確認、配慮を要する幼児の避難誘導、足ふき用雑巾用意</p> <p>事業担当主事：○小へ避難しましたカードを掲示する【門】</p> <p>開門する（2次避難時）</p> <p>道路横断時の安全確認をする</p>		

実践事例 20 小中連携 授業実践「防災」

1. 対象・・・小学校（小中連携による中学生の出前授業）
2. 学習のねらい
 - ・ 今後発生が予想されている、東南海・南海地震とそれに伴う津波に備えるため、学校・家庭・地域・行政が一体となった取り組みを進め、連携を強化する。
 - ・ 各学年の発達段階に応じた防災訓練活動を行い、児童の防災に対する意識を高める。
3. 学習展開の例

主な学習内容と活動	指導上の留意点（教科等との関連）
<p>○防災に関する動画を視聴する。</p> <p>・ 防災・減災学習（1～6年）</p> <p>○地震発生メカニズムや危険性等について知る。</p>	<p><NHK for school 視聴（10分）></p> <p>1年 新ざわざわ森のがんこちゃん 「もしものときのがんこちゃん」</p> <p>2年 よろしくファンファン 「自然災害とともに生きる～地震～」</p> <p>3年 ドスルコスル 「どうする？大災害が起きたら」</p> <p>4年 ドスルコスル 「こうする 災害への備え」</p> <p>5年 学ぼう BOSAI 「地球の声を聞こう 津波から命を守るには」</p> <p><動画視聴（10分）></p> <p>6年 「熊本地震」について</p> <p>※前日までに動作確認をしておく。</p>
<p>○各学年及び各ブースで活動を開始する。</p> <p>・ 防災体験学習</p> <p>【1年】各教室</p> <p>①「防災・減災」DVD 視聴</p> <p>②「新聞紙でつくる生活用品」（スリッパ）</p> <p>【2年】</p> <p>ブース①：DVD（20分間）【担任】</p> <p>ブース②：水消火器体験（20分間）【消防署】</p> <p>ブース③：ミニ消防車見学（20分間）【消防署】</p> <p>【3年】</p> <p>ブース①：DVD（20分間）【担任】</p> <p>ブース②：水消火器体験（20分間）【消防署】</p> <p>ブース③：VRによる疑似地震体験（20分間）</p> <p style="text-align: center;">【区役所】</p> <p>【4・5年】</p> <p>ブース①：DVD（20分間）【担任】</p> <p>ブース②：搬送体験（20分間）【消防署】</p>	<p>・ 学級担任で担当する。</p> <p>・ 新聞紙は学校で用意する。</p> <p>・ あいさつや紹介等は、担任で進行する。</p> <p>・ 各ブース 20分間の設定。</p>

<p>ブース③：圧迫救助法体験（20分間）【消防署】 【6年】 ブース①：区役所講話（20分間）【警察署】 ブース②：煙テント（20分間）【消防署】</p>	
<p>ブース③：中学生による防災出前授業（20分間） 【各教室】</p>	
<p>【めあて】 ○小学校児童・教職員が防災活動に取り組むきっかけ作りとする。 ○防災ALT（生徒自主防災チーム）の活動報告及び防災・減災の啓発を行う。 ○防災・減災教育の活動を通じて、小中連携を強化する。</p>	
<p>○防災ALTによる授業 ・防災ALTについて ・防災クイズ</p> <p>○避難に関するピクトグラム 4種類 ・危険個所ピクトグラム 3種類 ・自分の住んでいる場所だけでなく出かけた先での避難や危険個所に注意を促す活動を考える。</p> <p>○まとめ ・できることからはじめよう！</p>	<p>・防災ALT発表用パワーポイント資料（活動紹介動画を含む）</p> <p>・班に1セット、ピクトグラムパズルを準備 【準備物】＜拡大ピクトグラム＞ ①避難場所 ②避難所 ③津波避難場所 ④津波避難ビル ⑤津波・高潮注意個所 ⑥土石流注意個所 ⑦がけ崩れ地すべり注意個所</p>
<p>○各教室で、振り返りカード記入する。</p> <p>○引き渡し訓練 「ただいまより、引き渡し訓練を行います。保護者の方は、子どもがいる教室に迎えに行ってください。なお、きょうだいがいる場合は、上の学年にお迎えに行ってくださいよう、よろしくお願い致します。学校で待機する児童は（正門）を通過して下校を行います。」</p> <p>○学校待機児童はそれぞれ下校する。</p>	<p>・引き渡し訓練について説明する。</p> <p>・低学年教室の混雑を避けるためきょうだいのいる児童は、上の学年の教室に移動する。</p> <p>・保護者が教室に迎えに来たら、事前に提出された手紙をもとに名前を確認し、児童を引き渡す。</p> <p>・待機教室の担当教員引率のもと、正門を通過して下校する。</p> <p>・担当している地区を巡視する。</p>